

**混迷する中東情勢を憂慮し、不拡散をめぐる国際協力体制の強化と  
世界の恒久平和に向けた理性を求める**

核兵器廃絶・平和建設国民会議  
(略称 KAKKIN)  
事務局長 谷川 文朗

2026年2月末に始まった米国およびイスラエルによるイラン攻撃によって、中東地域はこれまでにない緊張感に包まれている。加えてロシアによる核の威圧や、イランによる核開発の進展と、それに対する周辺国の警戒、さらには大国の思惑が交錯する一触即発の事態が続く中で、エネルギー供給や海上交通路にも重大な影響を及ぼしている。冷戦終結後の国際安全保障秩序はかつてない深刻な局面を迎えている。

こうした中で欧州においては、フランスが核弾頭の増産を決定し、核抑止戦略強化の時代への回帰とも言える動きも見せている。これは核軍縮から核戦力の強化へと安全保障の論点が行きつらなことを意味する。そしてそれは、核拡散の連鎖を誘発する可能性を示唆することになりかねない。

KAKKINは2022年、ロシアのウクライナ侵略に対し抗議メッセージを発信し、核兵器廃絶、平和建設の立場から、即時停戦とロシア軍のウクライナからの撤退を強く求めてきた。中東地域においても即時停戦が急務であることは論を待たない。力による威嚇や報復の応酬は、核兵器使用のリスクを飛躍的に高める可能性があり、対立激化は、地域紛争に留まらず、世界規模の経済・安全保障を揺るがす事態を招きかねない。「力の平和」はわたしたちが望むものではないはずだ。

特に核兵器拡散の脅威は、東アジアと日本周辺地域においても深刻だ。そうした中で4月8日、北朝鮮が弾道ミサイルを発射した。世界が深刻な核の脅威に直面しているこのような緊張下において、核弾頭の搭載を想定したミサイル開発を強行し、軍事的緊張を一方向的に高める北朝鮮の姿勢は、国際的な核不拡散体制（NPT）への重大な挑戦であり、断じて容認できるものではない。

我々KAKKINは結成以来、「いかなる国の核兵器、核実験にも反対する」という不変の原則を掲げ、運動を展開してきた。今まさに核兵器の存在そのものが人類に対する最大の脅威であるという原点に立ち帰り、国際社会が協調して軍縮と不拡散の枠組みを再生すること、そして、世界の恒久平和に向けた理性を強く求めるものである。